

03 紳士服製作



素材に合った伝統的な技法で背広を仕立て上げます

洋服が日本に伝来して約160年。一般に普及は戦後(1945年)以降です。背広型は工業化縫製で作業服化し、手作り縫製の注文洋服は高級裁縫技術品になりました。服装は固有の文化であり、着装する人の容姿や感性を熟慮して仕立てられる注文洋服は、より高く人格と、品性を表現します。

競技概要

事前に裁縫した上着の各部品(前身頃・背中・衿・袖)を組み立てて、人台に着せた時に見栄えと、手縫い技能の奥義の熟達度を競います。衿を除く各部品は手縫い又はミシン縫いで加工し、大部分は手作業で縫い合わせ、完成します。

Point

部品のうち、上前の前身頃の見返し合わせは本競技で製作します。衿は手作業で作製し、袖を付けます。穴かがり・ステッチ(星縫い)・ポケット作りなどと、各部品の良否・立体形的美観について20項目を採点し評価されます。

男性用ジャケット



第30回 競技課題

まつり縫い



縫い合わせの箇所により、堅牢にする場合と、きれいに縫い合わせられる場合があります。いずれもしっかりと縫い合わせながらそれぞれの素材特性に見合ったゆとり量を入れて縫い付けます(絹手縫糸9号を使用)。「付きまつり」、「端(はな)まつり」、「奥まつり」があります。

穴かがり



テープ張り(テープ吊り)



ラベル(下衿)の形を定着させ、表服地と身頃芯を一体化する作業。ラベルの立体を造形するために必要です。

八刺し



上衣のラベルや上衿の【地衿】に施す刺し縫い。それぞれの個所の芯地と表服地を重ねて、なじませつつ、微妙なふくらみや張りを保つための縫い合わせです。仕上がり立体形に大きく影響します。通常は、3cm四方に約30針以上羽二重糸(ミシン糸)で刺し縫いします。

鈕穴かがり。職人が手縫い工程の中で最も針技を集中して作業する箇所です。結び目のコブと針足を整列に調和させてかがり縫いします(絹糸16号を使用)。ラベルの飾り穴(おとし穴)はバジなどの着用を考え、「ねむり穴」「本開け穴」の場合もあります。



アイロン
縫い代をきっちり
押さえるために使う道具

ハサミ、メジャー

